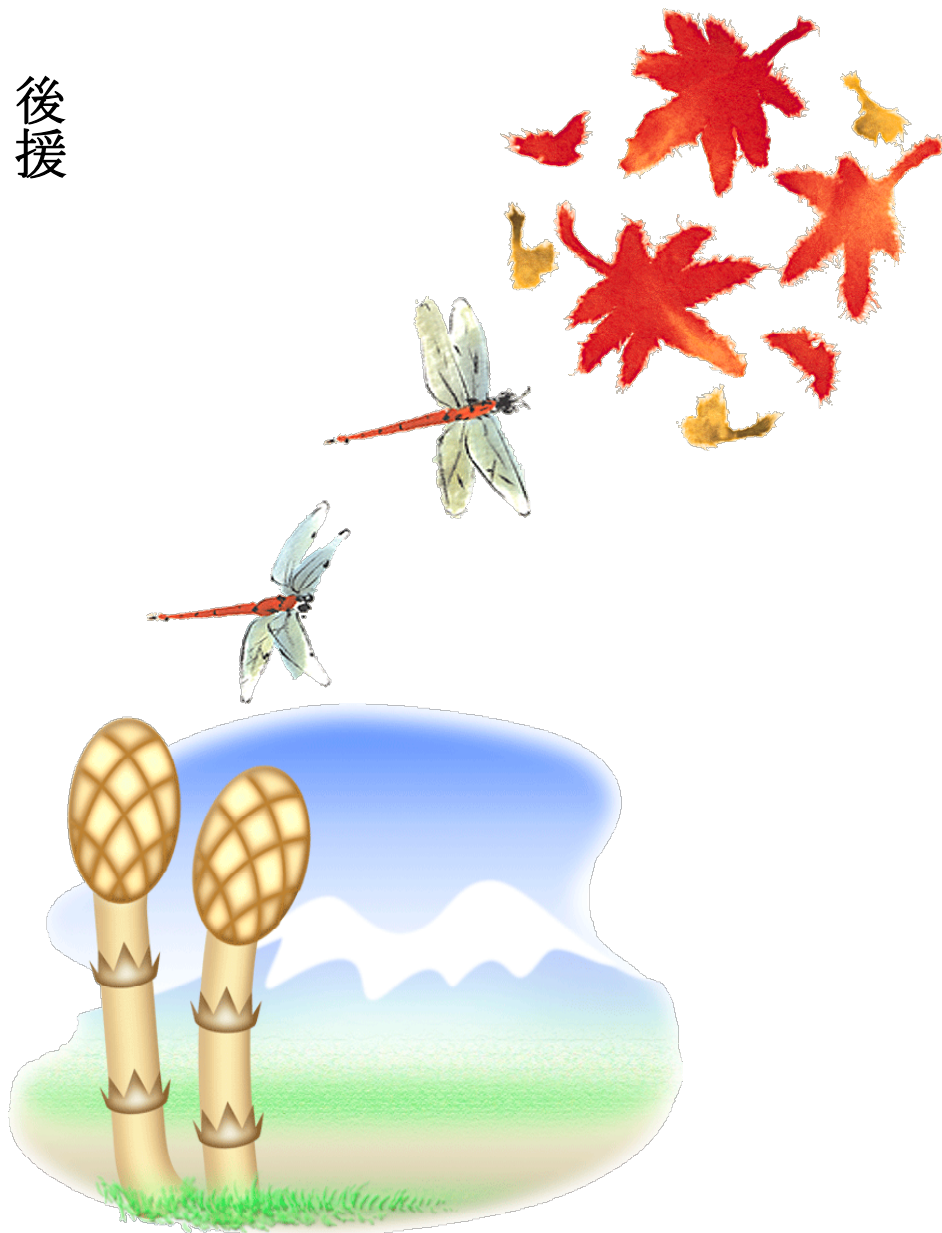


NPO法人現代の教育問題研究所主催
第3回近江の子ども俳句教室

〈投句部門〉

作品集

ー春夏の俳句・秋冬の俳句ー



後援

滋賀県・大津市・草津市
滋賀県教育委員会・大津市教育委員会・草津市教育委員会
草津俳句連盟・産経新聞社・中日新聞社・京都新聞・朝日新聞大津総局
読売新聞大津支局・毎日新聞大津支局・F M おおつ・NHK 大津放送局
えふえむ草津・K B S 京都放送・B B C びわ湖放送

はじめに

「第三回近江の子ども俳句教室（投句部門）」を、春夏の俳句・秋冬の俳句の2回に応募期間を分けて募集しました。応募してくださった皆様ありがとうございます。

私たちは、子どもたちに美しい言葉・良い言葉を学び、生活の中で活かし、言葉で考え、自らを奮い立たせることができる社会人になつてほしいと願っている人たちの集まりです。名前は「特定非営利活動法人（NPO）現代の教育問題研究所」といい「国語力は人間力」という考えで活動をしています。この度も、俳句を通して、言葉の力を育ててほしい、生きる力を伸ばして欲しいと考えて計画をしました。

俳句は、美しい言葉を使つて、自然や気持ちを表すことができます。俳句は五・七・五の十七音と季節を表す言葉（季語）を使つて作品にするという約束があります。十七音ですから簡単だと思う人がいます。が、きゆうくつだと考える人もいます。奥が深い、楽しい等、多くの人々が色々な思いを持ちながら俳句に親しんできました。

花を見たとき、美しいと思う時があります。かわいいと思つたり、飾つてみたいな、誰が育てたのだろうと考えることがあります。このことを、「心が動く」といいます。

心が動くものは、空や雲、山、湖、さらに、虫や果物や野菜など身のまわりのもの全てです。もちろん、友達とのことでも学校生活でも、心が動くことはたくさんあります。

心にゆとりがあると、見たこと、したこと、感じたことを、振り返ることができます。心が動いたことを言葉にすることは、考える力にもなります。俳句は、心の動きを十七音で表現する勉強です。心にゆとりがあると美しい言葉が生まれます。俳句を通して、生命や人、自然を大切にし、言葉を大事にする人に育つてほしいと願っています。

応募してくださった皆さんの作品を丁寧に読み、心の動きを感じました。そして、みなさん一人一人に出会つて、言葉を大切につかってくださつて、ありがとうございますと言いたい気持ちを含めて作品集にまとめました。ごらんください。

最後になりました、本事業にご後援、ご支援、ご協力を賜りました関係の皆様にご心よりお礼申し上げます。

令和四年一月十日

特定非営利活動法人（NPO）現代の教育問題研究所

理事長 吉永 幸司

《春夏の俳句》

応募期間 2021年7月19日～9月10日

【大賞作品】 応募総数864句より21句を大賞として選
びました。おめでとうございます。

滋賀県知事賞

滋賀県草津市立笠縫東小学校

4年

赤ちゃん

生まれてくるよ 夏の空

山元

辰剛りゅうこう

【選評】

夏になったら、赤ちゃんが生まれてくることを楽しみにしている気持ちがあふれています。家族で赤ちゃんのことを話題にしながら待っている気持ち「赤ちゃんが生まれてくるよ」という十二文字に表れています。その中でも「よ」という文字が、強く心に響いてきます。ワクワクしている心の中を、辰剛さんの言葉で上手に表現しています。

吉永 幸司（理事長・前京都女子大学教授・同附属小学校長）

大津市長賞

滋賀県大津市立志賀小学校

1年

あかとんぼ

そらにさいてる はなのよう

水谷

優希ゆうき

【選評】

夏の終わり、暑さがやわらぐと、赤とんぼが、山から下りてきます。優希さんは、たくさんの赤とんぼが群れをなし、青空の下、つながって飛んでいる姿を見つけたのでしょうか。その様子を、「そらにさいてる はなのよう」というたとえの言葉で表現したのは、見事です。とても美しい光景が目に見えられます。

三上 昌男（元近江八幡市立金田小学校長）

草津市長賞

滋賀県彦根市立城南小学校

6年

目かくしで

右に左に スイカ割り

荒川

玉稀たまき

【選評】

「もつと右」「おいしい、もうちよつと左」などスイカ割りをする周りの声が聞こえてきそうです。右に左に大きく棒を打ち下ろす姿が目に見えます。下の句の「スイカ割り」だと周りが見えている感じが、スイカ割りにすることで何とかスイカを割ろうとする玉稀さんの強い気持ちが伝わってきますね。

伊庭 郁夫（元大津市立木戸小学校教頭）

滋賀県教育長賞

滋賀県立河瀬中学校

3年

絵日記に

大きくひとつ

スイカの実

久米

琥大郎こたろう

【選評】

「みんなで食べたスイカが、すごく大きくておいしくてうれしかったんだ。」と言いながら絵日記をかいている小さな子を、家族が囲む夏のほほえましい情景が浮かびました。「絵日記」で興味を引き付け「大きくひとつ」と言い切って、まさしくこれが子供の夏だ！と感じさせる琥大郎さんの言葉の選択にまいりました。

森 邦博（副理事長・京都女子大学非常勤講師）

大津市教育長賞 滋賀県大津市立小野小学校

5年

母と見た 夕立さつた 茜空

中城 美種^{うたね}

【選評】

さつきまではげしい夕立だったのに、いつのまにか空に広がった夕焼け。お母さんと美種さん二人、「あつ、夕焼け。」「本当、きれい。」なんて会話をしながら、見つめているシルエットが思い浮かびました。茜空（夕焼けの空）の美しさを、その前のはげしかったであろう夕立が引き立てているように思いました。

高野 靖人（理事・元大津市立仰木の里東小学校）

草津市教育長賞 滋賀県草津市立志津小学校

3年

春風は 光といっしょに ながれ出す

竹内 勇樹

【選評】

寒かった冬がすぎて、少しずつ春を感じることができるようになった様子を豊かに表した作品です。風と光とを結びつけ、「ながれ出す」と感じとつたとらえ方がすばらしく、感心しました。春風とお日さまの光を受けながら、気持ちよさそうに、そして「これからがんばるぞ」と思う勇樹さんの姿がうかんできました。

北島 雅晴（元草津市立志津小学校）

草津俳句連盟会長賞 京都府 京都女子大学附属小学校 3年

職人の 父のほこりは 日焼け顔

田仲 那帆

【選評】

なんて素晴らしい俳句でしょうか。那帆さんのお父様に対する尊敬の気持ちや、「父のほこりは」という言葉から痛いほど伝わってくる感動の句です。同時に「日焼け顔」の表現が職人として心をこめてお仕事をされているお父様の誠実さにぴったりですね。この句を読んだお父様は、きつと胸がいっぱいになれるにちがいありません。

好光 幹雄（実行委員長・京都・立命館小学校）

NHK大津放送局長賞 滋賀県 滋賀大学教育学部附属小学校 1年

そらはれて ぴかぴかひかる なつのうみ 皐月 望

【選評】

夏休みに詠んだ句でしょうか。「ぴかぴかひかる」という言葉が一年生らしくて、とてもすてきですね。きつと、とっても楽しみにしていた「なつのうみ」だったのでしょうかね。待ちに待ったお楽しみ。気持ちも盛り上がり、その上、いいお天気で空も海も本当に輝いていただけでなく、望さんの顔も心もぴかぴか輝いていた様子が思い浮かびました。

蜂屋 正雄（野洲市立北野小学校）

KBS京都放送賞 兵庫県尼崎市立潮^{うしお}小学校 6年

顔寄せ待つ こつち向いてよ 扇風機 浜田 雫羽^{しずは}

【選評】

暑い夏のある日、家族みんなで扇風機の風を受けて涼んでいるのか。扇風機の首を振るスピードがもどかしく早くこつちを向いて風を送ってほしいと思っている気持ちが生きて伝わってくる一句です。さらに「顔寄せ待つ」という言葉があることで雫羽さんの待ちきれない気持ちを上手に表せていますね。

北川 雅士（彦根市立城南小学校）

BBCびわ湖放送賞 滋賀県高島市立本庄小学校 5年

水遊び みんなの笑顔 はじけてる

橋本 稟汰郎りんたろう

【選評】

「はじけてる」の表現から、勢いよく飛び散るキラキラとした水しぶき、その先にある「みんなの笑顔」が目の前に立ち上がりまします。稟汰郎さんは、みんなが同じように笑い合い、はしゃいでいる光景に心が躍っているのでしょうか。仲間とつながる喜びがこの句から強く伝わってきました。素敵な思い出の一コマに心が温まりました。

谷口 映介（滋賀大学教育学部附属小学校）

FMおおつ賞 滋賀県高島市立新旭北小学校 3年

パチパチと せんこう花火 橋の上 伊庭 愛美香

【選評】

「橋の上」という言葉が印象に残る、とても素敵な俳句ですね。静かな雰囲気に包まれた橋の上で、線香花火の「パチパチ」と微かに響く音だけが浮かんできます。橋の下の水面には、花火をする愛美香さんの姿が映っているのでしょうか。かけがえのない思い出を線香花火にしばらく表現した点に、愛美香さんの言葉のセンスが光ります。

弓削 裕之（京都女子大学附属小学校）

えふえむ草津賞 和歌山県有田川町立藤並小学校 4年

かき氷 あまいシロップ たつぷりと 木村 心優みゆ

【選評】

かき氷が「あまいシロップ」で鮮やかに色づきます。ブルーハワイかな、イチゴかなレモンかなと楽しく想像できますね。赤、青、黄色とあれこれかけてカラフルなのかもしれません。しかも「たつぷりと」という表現で特別な味のかき氷を作っている心優さんの得意そうな 笑顔まで目に浮かんできます。かき氷を私も食べたくなりました。

川端 大介（守山市立立入が丘小学校）

朝日新聞大津総局長賞 大阪府羽曳野市立高鷺南小学校 5年

雨がやみ 晴れた空には 二重虹ふたえにじ 佐藤 優希

【選評】

雨に洗われた目の前の風景、その向こうに澄み渡る青い空、そこには七色の虹が二つも。優希さんが、練って十七音を選び、読む人を鮮やかな想像の世界に案内してくれているようです。読んだ人の多くは、二重虹をいつか見てみたいという願いを持つことでしょう。優希さんの素敵な十七音に感謝したくなります。

杉澤 周一（元東近江市立八日市西小学校長）

毎日新聞大津支局長賞 京都府 京都教育大学附属京都小中学校 4年

垂直に 重なり合うよ 油蟬 西川 慧

【選評】

日差しが強く照りつける夏の昼、鳴りやまない油蟬の声の中。ふと見上げた木のそそり立つ高さ、さらにその奥の夏空の大きさ等、読んだ瞬間に夏の景色が浮かんできました。数多くの油蟬の鳴く夏の風景の中から「垂直に重なり合う」油蟬を発見した映像を切り取り、その瞬間の心の動きを表現した慧さんの鋭い感性が光ります。

池寄 繁伸（彦根市立河瀬小学校教頭）

読売新聞大津支局長賞 京都府 京都女子大学附属小学校 2年

くものみね すきなやさいと せいくらべ 浮村 美千子

【選評】

夏の真つ青な空に入道雲が山の峰のように白く立ち上がります。一方、美千代さんが「すきなやさい」と表現しているように、大切に育てた野菜が、日差しをいっばいに浴びて大きく成長しています。その野菜と「くものみね」をせいくらべさせるなんて、すごい比べ方ですね。美千子さんの驚きや喜び、満面の笑みが目に浮かびます。

川那部 隆徳(栗東市立治田東小学校長)

産経新聞社賞 京都府京都市立西陣中央小学校 3年

風吹いて 向日葵ゆらと ゆれました 中川 葉

【選評】

凜と咲く向日葵が優しい風にゆつくりと、まるでスローモーションのようにほんの少し揺れる様子が目に浮かびました。その動きを「ゆらと」ゆれましたと言葉を短く表したことで作品がリズムミカルになりました。身近にある自然を映画に撮るように見つめながら、言葉を選んでいる葉さんの表現力がすばらしいです。

海東 貴利(高島市立安曇小学校)

中日新聞社賞 滋賀県立河瀬中学校 3年

夏の夕 男児の頬の マスク焼け 竹村 京華

【選評】

暑い夏の夕方、真つ黒に日焼けした男の子と出会い、その白い口元を見て、「外で元気に遊んだ帰りかな、それともスポーツの帰りかな」と思いを巡らせる様子が伝わります。「マスク焼け」の表現から、夏の強い日差しやそれに負けない男児の元気さ、男児にあたたかい眼差しを向ける京華さんの優しさが感じられます。

箕浦 健司(長浜市立南郷里小学校)

京都新聞賞 京都府 立命館小学校 4年

夜の街 静かになった セミの声 奥村 涼司

【選評】

街明かりの夜の静けさにいながら、照りつける太陽の下でセミたちの合唱が聞こえてくるようです。それは、涼司さんが耳で感じ取った夜の静けさと昼のセミの声を十七音の中に見事に対比して表現しているからです。最近暑い夜にもセミが鳴くそうです。セミが静かになるくらい、涼しげで気持ちのいい夏の夜だったのです。

西條 陽之(大津市立小野小学校)

現代の教育問題研究所賞 京都府京都市立西院小学校 5年

塾帰り 毎回夕立 バスにゆれ 田中 花穂

【選評】

塾で疲れて帰るバスに乗ったかと思うと、激しい夕立が毎回のようバスに屋根や窓を叩きつけます。でも、その激しい雨が、花穂さんの一日の疲れをシャワーのように洗い流しているのでしょう。「バスにゆれ」という表現で、バスの中だけが大人以上に忙しい花穂さんにとって、ゆつくりできるような時間と空間なのかもしれません。

好光 幹雄(実行委員長・京都・立命館小学校)

現代の教育問題研究所賞 滋賀県高島市立朽木中学校 3年

ランメニユー 雷が鳴り 屋根の下 谷 春秀かずひで

【選評】

仲間と競技をしたり技を磨いたりする楽しいはずの部活の時間を、雷が邪魔をします。屋根のある狭い所を走るランメニユーに変えなければならぬ春秀さんの悔しさと諦めが、「屋根の下」と言い切っていることで、より強く感じられます。同時に雷が去った後の春秀さんの笑顔まで想像できるストーリー性のある句としても見事です。

好光 幹雄（実行委員長・京都・立命館小学校）

現代の教育問題研究所賞 滋賀県守山市立立入が丘小学校 2年

あさがおが 水をのんで わらってる 二宮 奏

【選評】

奏さんが、「さあ、のどがかわいたでしょ。いっぱい飲んでね。」と朝顔に語りかけている様子が目に浮かびます。そして、朝顔も「ありがとう。つめたいお水、おいしいよ。たくさんのだよ。」と笑顔で答えている様子が「わらってる」からも想像できます。朝顔の声や表情や気持ちまでわかる奏さんの優しさが伝わる素敵な俳句ですね。

好光 幹雄（実行委員長・京都・立命館小学校）

【入選作品】

応募総数864句より90句を入選として
選びました。おめでとうございます。

滋賀県高島市立朽木中学校

赤紫蘇で 赤く染まった 祖母の指 中学3年 山本 桃実

滋賀県・滋賀大学教育学部附属小学校

日のもとで プールに映る くろいはだ 4年 北村 啓二

京都府京都市立西院小学校

ひまわりが お日様みたいに わらってる 3年 田中 杏奈

大阪府羽曳野市立高鷲南小学校

太陽で 空晴れわたる 夏まひる 3年 佐藤 想太

滋賀県大津市立小野小学校

雨上がり 青空うつる 水たまり
セミからの バトンうけとる アキアカネ
こうらぼし せんたくものも てんびぼし

5年 新開 昊
5年 西村 涼葉
5年 奥 奈津実

滋賀県高島市立本庄小学校

かき氷 つめたくしやりっ おいしいな
た府県に 行けずじまいの 夏休み
ふうりんが 風でひらひら チリンチリン

3年 竹内 泰仁
3年 北川 大輝
5年 梅村 杏

滋賀県守山市立立入が丘小学校

ハンモック 風にゆられて なつのよる
風りんが 風にゆられて ちりんちりん
すみくさい まわり見わたし キャンプじょう
ふうりんが 風にゆられて ゆめのち

2年 今江 昂誠
2年 手島 章斗
2年 古賀 祐誠
2年 山田 泰誠

滋賀県立河瀬中学校

カラコロリ ぐいと飲み干し 鳴る風鈴
波の音 みみいっぱいに 夏休み
音きくと 肌で感じる 青い夏
かき氷 一人ひとりが 色違い
すずむしの ささやく声が こだまする

3年 楠神 帆香
3年 若宮 奏
3年 川村 心桜
3年 西村 颯真
3年 松宮 花歩

滋賀県彦根市立城南小学校

夏至の夜 辺りを照らす 通り道
闇の中 イルミネーション 蛍達
日にあたり 輝くラムネ キラキラと
カブトムシ 木の幹土俵 相撲とり

6年 小林 つばさ
6年 上野 巧真
6年 龍田 美波
6年 大野 瀬来翔

手がふるえ	せんこう花火	息とめる	6年	林	春成
バーベキュー	準備の時から	楽しいな	6年	藤井	沙季
次の授業	プールだ心は	およいでる	6年	大澤	奈央子
太陽と	大暑がこがす	くろいはだ	6年	北村	佳乃果
競い合う	線香花火	親類と	6年	結城	海璃
さようなら	かとりせんこう	さつていく	6年	上野	将
始まった	ミンミンゆかいな	セミ合唱	6年	島尻	七緒
夏の日	鉄旅楽しむ	三重県へ	6年	川村	亮太

兵庫県尼崎市立潮小学校

サングラス	かけたらいきりと	よばれちゃう	6年	藤田	大樹
でばんなし	ゆかたは今年も	まちぼうけ	6年	田仲	知子
虹を見た	雨上がりの空	カフェの前	6年	高橋	奈々
来年も	一緒に見ようね	はくちよう座	6年	大澤	奈緒
暑い日は	アイス片手に	本を読む	6年	西嶋	樹
朝露に	あこがれている	カエルの子	6年	古村	拓門
校門を	通りぬけると	セミの音	6年	端野	楓花
水面揺れ	波紋広がる	蛙の音	6年	高岡	奏汰
花火散り	夜空の花壇は	花開く	6年	福田	千実実
母の日に	小さい愛を	とどけたよ	6年	高岡	映南
春暁の	間にあるのは	闇の雲	6年	筒井	佑香
笑顔さく	入学式に	花ももう	6年	田悟	葵
靴光る	細い西日に	反射して	6年	米田	圭佑
暑い部屋	ねこもダラダラ	毛づくろい	6年	前原	望花
桜舞う	天女のように	美しく	6年	森田	一颯

京都府・京都女子大学附属小学校

かきごおり おきやくさんは おねえちゃん	1年	小宮山 藤娘
ひまわりさん ぐんぐんのびて たいようへ	1年	中井 穂佳
ダンスする あさがおさんと 雨の音	1年	葛山 日向花
ふわふわと そらまでとどく しやぼんだま	1年	下園 紗代
せみがなく どこにいるのか わからない	1年	大和田 龍園
ひまわりは いつもうえむき あかるいな	2年	大川 紗季
木のえだに セミのぬけがら 密 みつ ですよ	2年	林 遼太朗
夏休み かけざんいっぱい おぼえたい	2年	安原 識子
みんなと 鳴く声さがすが 見つからない	2年	居波 廉太郎
あつい日も マスクつけて とうこうだ	2年	勝原 すみれ
夏の日の 動物園は ぐったりだ	3年	今井 美佳
虫たちの 夜のパーティー 外灯で	4年	居波 明渥
にじいろの シャワーみたいに ふる花火	4年	堀田 創亮
夏は海 淡い色が 目に留まる	5年	小川 遥
かき氷 父はよくばり 頭痛あり	5年	中村 楓
雨の日に 外へおでかけ かたつむり	5年	丸山 碧
ヒマワリも 育ったけれど ぼくが上	5年	藤原 直繁
山滴る 雨水 うすい のしずく 硝子玉	6年	境 彩葉
夜花火 何もない空 色がつく	6年	浅田 陽菜
止まらない 目覚まし時計が セミの声	6年	長田 果穂

滋賀県草津市立笠縫東小学校

つばめがね 動きだしたよ うれしいな	4年	正垣 心彩
ばあちゃんと ひまわり植えた 木曜日	4年	飛鳥 馬心春
公園で 青葉そよそよ かがやいた	4年	津田 青葉
皿の上 三つついてる さくらんぼ	4年	日野 望

妹の 用意がおそい クローバー

4年 内田 優衣

登校日 水たまりふむ 夏の朝

4年 桑嶋 聖七

川遊び 口びるむらさき 手にココア

4年 三上 哲平

ベランダで ヘチマが育つ 青い空

4年 鵜田 結

ドアあけて ママとみつめた ゆうやけを

4年 佐々木 麻衣

まどあけて 星をみつめた 夏の空

4年 橋村 怜

いもうとが はじめて走った 春の夜

4年 小山 修治

一学期 さいごのにもつ 何キロだ

4年 山本 真美

クッキーを パパと作った さくらさく

4年 津雲 美翔

みがきたて グローブ使った 夏の風

4年 青山 直生

かまきりが たまごから出る 春の夜

4年 松野 創

妹が たくさんしゃべる 夏の夜

4年 福嶋 鈴泉禾

たん生日 いもうと祝う 夏の夜

4年 田中 花音

公園で 家族と遊び ちようがまう

4年 田中 爽良

やきそばが 太くなっていた 春の夜

4年 小林 由芽

赤ちゃんが もうすぐできる 春光

4年 加藤 未央

晴ればかり あじさい強く たくましい

4年 高根 紗羽

妹が 言うことを聞かない 夏の雨

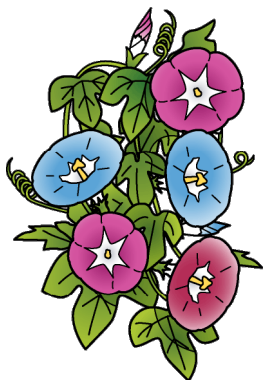
4年 安藤 愛菜

夏の夜 辛い物作る お母ちゃん

4年 浅野 一翔

公園で ボールで遊んだ 春の空

4年 松元 遥香



素晴らしい作品の数々、感動の俳句をありがとうございました。

二〇二二年十一月三日

NPO法人 現代の教育問題研究所

近江の子ども俳句教室実行委員会一同

《秋冬の俳句》

応募期間 2021年10月1日～12月10日

【大賞作品】

応募総数3541句より25句を大賞として選びました。おめでとうございます。

滋賀県知事賞

滋賀県草津市立笠縫東小学校

6年

弟がグーでもみじに負けていた

新井 結翔ゆうと

【選評】

いくつの弟さんでしょうか。いつもグーをしてる赤ちゃんでしょうか。それとも、遊びを覚えた頃でしょうか。「グー」と「もみじ」から、お兄さんのやさしい気持ち伝ってきました。また、「負けている」でなく「負けていた」から、かわいい弟さんの手の様子と結翔さんが弟さんを大事にしていることがよくわかる作品です。

吉永 幸司（理事長・前京都女子大学教授・同附属小学校長）

大津市長賞

滋賀県大津市立小野小学校

6年

カレンダー 残り一枚 冬近し

小林 静佳しずか

【選評】

季節は行きつ戻りつして確実に進んでいきます。カレンダーを一枚一枚めくりながら、静佳さんはその様子を感じ取っているのですね。立冬まで残りわずかとなったカレンダーを見て、「残り一枚」そして「冬近し」と言い切った表現で、いよいよ冬が間近になってきたという実感が見事に表されています。とても切れ味のよい作品です。

池寄 繁伸（彦根市立河瀬小学校教頭）

草津市長賞

京都府・京都女子大学附属小学校

6年

稲の穂や 風歌うたび 金メダル

境 彩葉いろは

【選評】

稲の穂を見て、オリンピック選手のように「稲の穂にも金メダルをあげたい」という彩葉さんの思いが上手く表現されていますね。また、「風歌うたび」と表現することで、みんなが何度も祝福してくれているようです。彩葉さんの言葉選びに感心しました。こんな素敵な言葉で表現できる彩葉さんにも金メダルをあげたくなるそんな俳句です。

北川 雅士（彦根市立城南小学校）

滋賀県教育長賞 滋賀県彦根市立城南小学校 6年

試合負け かすんで見える もみじたち 北川 陽音^{はると}

【選評】 スポーツ少年団でしょうか。試合に負けた、帰り道。くやしくて、こぼれる涙。でも、陽音さんが「涙が出た」と書かずに「かすんで見える」と表現したのが、素晴らしいですね。しかも、周りに見えるのが、たぶん赤く紅葉した「もみじ」。「もみじ」の美しさが、くやしい気持ちを高めているように思いました。くやしさを、美しく表せました。

高野 靖人（理事・元大津市立仰木の里東小学校）

大津市教育長賞 滋賀県野洲市立北野小学校 4年

祖母と行く 土佐のおへんろ 落ち葉ふむ 島村 紗萌^{さほ}

【選評】 「祖母と行く土佐のおへんろ」から、紗萌さんとおばあさんが寄りそい、温かくやさしい言葉ではげましあいながら、四国を巡る様子が浮かびます。その二人がゆっくりと歩き「落ち葉ふむ」のですから、やさしくやわらかい音が聞こえるように感じます。紗萌さんの選んだ言葉が心を穏やかにしてくれました。

杉澤 周一（元東近江市立八日市西小学校長）

草津市教育長賞 兵庫県尼崎市立潮小学校 6年

木の枝に しがみついている 冬の雨 森田 一颯^{いつそう}

【選評】 木の枝の雨粒を見つめる一颯さんの感受性に変化がありました。冬の雨は、夏の柔らかかにキラキラと光って降ってくる雨とは大違いで、凍り付くように冷たい雨ですね。この句を読むと、寒々とした風景の中で、枯れ木にかかる雨を、傘をさして見つめている作者の一颯さんの姿までが目に見えるようです。

森 邦博（副理事長・京都女子大学非常勤講師）

草津俳句連盟会長賞 滋賀県長浜市立虎姫学園 1年

どんぐりの ぼうしをとると つるつる 上田 大輝

【選評】 どこで出会ったどんぐりさんでしょう。ぼうしの中身が気になったのですね。「つるつる」という言葉にしたことで、どんぐりさんのつるつるした感じや、発見した時のびっくりした気持ちがいよりの伝わってきます。跳ねるようなりズムになっているので、声に出すだけで楽しくなる俳句です。はるきさんは言葉選びの名人ですね。

弓削 裕之（京都女子大学附属小学校）

NHK 大津放送局長賞 京都府・京都幼稚園 年中

どんぐりをふくろいっぱい ひろったひ

玉本 琉月奈 たまもと るな

【選評】

「あっちにもこっちにも！」とめをきらきらさせながらいっぱいのだんぐりをあつめている琉月奈さんのげんきなようすがたわってきました。ぼうしどんぐりやぴかぴかどんぐりなど、ひとつひとつがたいせつなことからものなのでしょう。「ひろったひ」がすてきないちにちだったことをじょうずにあらわしています。

西條 陽之（大津市立小野小学校）

KBS 京都放送賞 大阪府吹田市立千里第三小学校 3年

おつきさま ちきゅうのかげに たべられる 鶴田 淳悟 じゅんご

【選評】

たまにしか起きない月食を楽しみにしていたのでしようね。この句を詠み、すばらしさを二つ見つけました。一つは、淳悟さんが月食のしくみをよく知っていること。もう一つは、「かげにたべられる」という自分だけのとらえ方に感心しました。これからも美しい夜空をながめて、俳句をつくってくれたらうれしいです。

北島 雅晴（栗東市立葉山小学校）

BBC びわ湖放送賞 滋賀県高島市立安曇小学校 2年

お母さん いっぱいたよ 赤とんぼ 大辻 彩葉 いろは

【選評】

外で遊んでいる時に見つけたのでしようか。もうすっかり秋になったなあと感じることができます。彩葉さんは、お母さんのことが大すきなんです。自分の見つけたことや出会ったことをやさしいお母さんに伝えたいという気持ちが伝わってきました。思いをすなおに表した、あたたかさのある作品です。

北島 雅晴（栗東市立葉山小学校）

えふえむ草津賞 大阪府八尾市立八尾小学校 6年

恋人と 手ぶくろなしで 手をつなぐ 堀上 綾花 ほりがみ あやか

【選評】

なんとロマンチックな句なのでしょう。手袋よりも大切なあの人と直接つながる手の方が心までもが温かくなるようですね。そして、そんな温かな二人のコントラストとして、寒くて冷たい冬の街の景色までもが浮かんできます。綾花さんの感性が光る句で、たいへん魅力的に感じました。人とのつながりが薄れている昨今に大切にしたい一句です。

西條 陽之（大津市立小野小学校）

F M おおつ賞 埼玉県春日部市立武里西小学校 5年

ぐるぐるとへびのマフラー あったかい

阿部 結愛

【選評】俳句では、「へび」というのは夏の季語になります。が、「へびのマフラー」はマフラーのことを表すので、季語は「マフラー」になります。長いマフラーを首に巻いていると寒さを忘れてしまいます。結愛さんは「ぐるぐる」という言葉を選びました。大好きなマフラーをしている様子が分かる上手な作品です。

吉永 幸司（理事長・前京都女子大学教授・同附属小学校長）

朝日新聞大津総局長賞 滋賀県草津市立渋川小学校 4年

じゆくおわり 満月上からむかえくる

永良 優衣

【選評】じゆくからの帰り道で見上げた夜空の満月が、「よくやったね、まっていたよ」と迎えてくれたように感じられたのでしょうか。一生けんめいに学んでの帰りは、優衣さんは、きつとやりきったぞという気持ちだったのでしょう。その満足感とまん丸で大きな美しい満月とがひびき合っていることがこの句からは伝わってきます。

森 邦博（副理事長・京都女子大学非常勤講師）

読売新聞大津支局長賞 兵庫県尼崎市立潮小学校 1年

よくまわる どんぐりごまが つくれたよ

大瀧 遙生

【選評】生活科の学習で作ったどんぐりごまを、休み時間に友達と競い合い、夢中になって回している様子が浮かんできます。よく回ったことが、本当にうしかったのですね。「上手に作れたよ」と、友達や先生、お家の人に教えて、たくさん褒めてもらえたのでしょうか。遙生さんのうれしい気持ち、秋を存分に楽しむ様子が表れています。

箕浦 健司（長浜市立南郷里小学校）

毎日新聞大津支局長賞 兵庫県西脇市立双葉小学校 5年

赤蜻蛉

この指とまって にらめっこ

岡本 楓海夏

【選評】指先に赤蜻蛉をとめる。だれもが試したことのある行動ではないでしょうか。赤蜻蛉を指に止めるだけでも大変ですが、にらめっこまでできたなんてとっても素敵な瞬間ですね。「この指とまれ」と願った楓海夏さんと、その思いに応えてくれた赤蜻蛉とが顔を突き合っている様子が浮かんできます。

蜂屋 正雄（野洲市立北野小学校）

産経新聞社賞

滋賀県長浜市立虎姫学園

4年

きのこがり 図かん片手に おおはしやぎ

川上 大輝^{はるき}

【選評】

秋の野山を散策するだけでも気持ちいいものですが、大輝さんは、きのこ狩りに出かけたんですね。天然のきのこを見つけて大喜び。食べられるかどうかを図鑑で調べてスリルを楽しんでいるようで、「図かん片手に」みんなで「おおはしやぎ」している様子が目に浮かんできました。言葉の使い方が的確で、素晴らしい俳句です。

三上 昌男（元近江八幡市立金田小学校校長）

京都新聞賞 京都府・京都女子大学附属小学校 5年

朝昼晩 働きすぎの かかし君

遠山 史桜^{しおん}

【選評】

田や畑に立って農作物を守るかかし。「朝昼晩」とたたみかけるような表現や「働きすぎ」という言葉から、昼夜を問わず仕事に励むかかしの様子が目に浮かびます。疲れるでしょうね。そんなかかしへの気づかいや親しみを込めて、「かかし君」と呼ぶ史桜さんの優しさが伝わる一句です。思わず「休憩してね」と声をかけたくなります。

川那部 隆徳（栗東市立治田東小学校校長）

中日新聞社賞 和歌山県有田川町立藤並小学校 4年

すずなりだ みかんのしゅうかく まかせてよ 武内 聖夏

【選評】

有田みかんの名は全国的に有名ですね。きっと今年のみかんは豊作だったのですね。「すずなりだ」から、目の前の木に多くのみかんがぶらさがっている様子とみかんがたくさん実った喜びが感じられます。「まかせてよ」から収穫を前に「さあやるよ」「私なら大丈夫」といった聖夏さんの頼もしさがひしひしと伝わってきます。

伊庭 郁夫（元大津市立木戸小学校教頭）

NPO現代の教育問題研究所賞 大阪府大阪市立阪南小学校 5年

おおかみは わるいやつでは ありません 林 寛斗^{ひろと}

【選評】

「おおかみ」は冬の季語です。おおかみは害を与えるからという理由で駆逐され、もう日本では絶滅して見られなくなりました。でも、本当は自然の中でバランスを取るためにも大切な生き物だったのです。寛斗さんが言うように、まさしく、おおかみは悪いやつではないのです。広い視野でものごとを考え俳句に表す寛斗さんの芯の強さを感じた作品です。

好光 幹雄（実行委員長・京都・立命館小学校）

NPO現代の教育問題研究所賞 長崎県諫早市立本野小学校 5年

道ばたで 光っているよ いちようの葉 北島 ゆいり

【選評】「光っているよ」の表現から、晴れた青い空、柔らかに降り注ぐ太陽の光、その光の先にある鮮やかな黄金色が目の前に広がってきます。陽光のスポットライトに当たって浮かび上がる美しさをゆいりさんは感じているのでしょうか。場所が「道ばた」であるという所にも小さな秋をつぶさに感じ取る豊かな感性が表れています。

谷口 映介（滋賀大学教育学部附属小学校）

NPO現代の教育問題研究所賞 大阪府大阪市立堀川小学校 1年

きたまどの とをあけるとき 手はこおり 松元 七奈

【選評】「北窓」は冬の季語です。そんなむずかしいことばをしっているなんて、一年生なのにすごいですね。東西南北（とうざいなんぼく）には、それぞれ季節があります。東は春、西は秋、南は夏、そして北は冬。北窓から見える景色は冬の景色。七奈さんの手もこおりそうですね。みじかなことをしつかり見てとらえている素敵な作品です。

好光 幹雄（実行委員長・京都・立命館小学校）

NPO現代の教育問題研究所賞 大阪府八尾市立八尾小学校 6年

なんだろう 誰かが叫ぶ 冬の風 林 咲翔

【選評】冬の風は冷たく、時に唸るように強く吹きます。その風音の正体を一瞬「なんだろう」と思い、次の瞬間「誰かが叫ぶ」と捉えた表現から、句の世界にグッと引き込まれますね。一体誰が何を叫んでいるのだろうか、と更に想像が膨らみます。重く厳しい冬の世界ならではの咲翔さんの緊張感が伝わってくる見事な作品です。

川端 大介（守山市立立入が丘小学校）

NPO現代の教育問題研究所賞 京都府・立命館小学校 3年

つるし柿 今か今かと まっている 北尾 琴葉

【選評】鮮やかなオレンジ色からほんの少し色を変えた柿がたくさん連なって吊るされている家の軒先の様子が目に浮かんでくる作品です。今か今かと繰り返す表現は、早く味わってみたいと強く思っている琴葉さんの気持ちだけでなく、もう少し待てば美味しくなるぞとまるで吊るし柿も言っているように思わせる巧みな言葉の選び方です。

海東 貴利（高島市立安曇小学校）

NPO現代の教育問題研究所賞 京都府・京都女子大学附属小学校 4年

川下に ひがん花の 大通り

齋籐 雄太^{ゆうた}

【選評】

秋の通学路、川に沿ってたくさん彼岸花が咲いている様子が強く印象に残ったのでしょうか。この句で雄太さんが「大通り」と表現していることから、少しではなく、たくさん彼岸花が赤い道を作っていることが想像できました。真っ赤に咲く彼岸花の圧巻の風景を写生した写俳句の基本といえる素敵な作品ですね。

北川 雅士（彦根市立城南小学校）

NPO現代の教育問題研究所賞 滋賀県草津市立笠縫東小学校 4年

弟が せいちょうしたな 秋うらら

伊藤 亘輝^{こうき}

【選評】

弟さんは何才でしょうか。おむつが取れたのでしょうか。一人で服が着られるようになったのでしょうか。一人でお留守番ができるようになったのでしょうか。「せいちょうしたな」の「な」に亘輝さんのお兄さんとしての感慨深げな様子がにじみ出ていますね。「秋うらら」の季語がぴったりと当てはまる素晴らしい作品です。

好光 幹雄（実行委員長・京都・立命館小学校）

【入選作品】

応募総数3541句より96句を入選として選びました。おめでとうございます。

滋賀県草津市立渋川小学校

草むらの 夜に聞こえる 虫時雨^{むししぐれ}

4年 菅 大生

滋賀県彦根市立城南小学校

キャンバスに 描いた夕日と 鰯雲^{いわしぐも}

6年 岩津 恵示

長崎県諫早市立本野小学校

水鳥や 水平線を 飛んで行く
散るいちよう 後ろでひそかに 応えんだ

5年 野間田 智輝
6年 山口 羽心

滋賀県大津市立小野小学校

さつまいも 二つにわると お月さま
日がしずみ ふわふわ香る さんまの塩焼き

5年 石黒 朱凜
6年 湯浅 知咲

滋賀県野洲市立北野小学校

満月と	から紅の	かえでの葉	4年	大崎	透琉
どんぐりは	ころころ回る	どこまでも	4年	林	悠理

和歌山県有田川町立藤並小学校

ほとけさん	いつもありがと	すすはらい	4年	浜崎	瑛大
おぞうにを	彩る食材	花のよう	4年	楠林	咲実
心にも	光がさしこむ	十五夜だ	4年	西村	琉生
真冬はな	雪がふらなきや	動かんで	4年	池田	倫太朗

滋賀県高島市立安曇小学校

赤とんぼ	いっしょに見よう	夕やけを	2年	安原	愛美
すすきのほ	かがやきながら	ゆれている	2年	中村	和奏
かきむくよ	家族みんなの	言うことば	3年	藤田	さな
雪うさぎ	二人 ^{ふたり} なかよし	おいかけっこ	3年	井上	紫星栞

兵庫県西脇市立双葉小学校

盆踊り	たいこたたいて	みな踊る	2年	酒井	志寿華
運動会	「落とすもんか」と	バトンパス	3年	齋藤	ねね
赤とんぼ	一つにつながる	恋の夜	5年	藤平	庵李
中の実	あたりかはずれか	くり拾い	6年	小沢	夏都
帰宅後の	ふくろの中は	かきジュース	6年	穂満	史帆

大阪府大阪市立阪南小学校

秋の夜	澄みわたる空を	泳ぐ星	5年	高木	咲幸
山たちが	雪をかぶって	かくれんぼ	5年	荒川	夢
秋の風	おいしいにおい	運んでる	5年	楠田	晃大
秋入梅	わたしの心	すき通る	5年	佐々木	美緒
寒太郎	吹いたらみんな	顔赤い	5年	藤本	実来

埼玉県春日部市立武里西小学校

サントさん	ミルクとクッキー	たべなさい	4年	小島 莉愛 ^{りあ}
先生と	大きな月を	待っている	4年	松本 拳士郎
わたがしの	もう雪雲へ	手をのばす	5年	黒澤 莉愛 ^{りお}
さむい朝	海岸行つて	竿おろす	6年	中村 佳綱
スキー行く	すきまにすきが	きみがすき	6年	岩片 大樹
電気代	こたつでポンポン	とんでいく	6年	藤田 拓人
冬の花	いっしょにさいた	こいの花	6年	本山 環
霜柱	ふんで奏でる	メロディーだ	6年	手島 湖景

大阪府八尾市立八尾小学校

転がって	大きくなるぞ	雪だるま	6年	南 咲希
帰り道	満月ずっと	ついてくる	6年	羽多野 栞里
木枯らしに	背中おされる	帰り道	6年	永友 彩香
お月見の	団子で作る	ピラミッド	6年	脇田 歩睦
冬の空	眺めて繋ぐ	母のぬくもり	6年	上野 美咲
キャンパスを	赤く彩る	寒椿	6年	磯貝 陽菜子
もくもくと	まるでわたあめ	白い息	6年	川本 京音
お母さん	巻いてほしいな	マフラーを	6年	金橋 那奈

兵庫県尼崎市立潮小学校

いいけしき	どんぐりコロロ	ころがった	1年	真田 遙花
ゆきだるま	あそんでハートの	えをかい	1年	福味 紗希
どんぐりが	さかをコロコロ	まっしてくれ	2年	宇田 麻里子
七五三	わたし妹	晴れぎきる	2年	井高 由菜
秋がきた	寺のかねなる	しかはしる	3年	小間 栞
ストーブで	手を温めて	出発だ	4年	高砂谷 彰真
栗料理	焼き栗	栗飯	4年	稲積 凜人
もみじがり	目をうばわれる	グラデーション	6年	鍋谷 星奈

ねえ枯木 赤いドレスを また見せて
どんぐりさん 井戸端会議 何話す
かじかむ手 ノートの上を 泳ぐ文字

6年 野中 更紗
6年 山下 小次郎
6年 浜田 雫羽

滋賀県草津市立笠縫東小学校

自然薯が とろとろとろり くせになる
学校が 再開したよ 秋うらら
サッカーで ゴール決めたら 秋の風
大阪でたこやき食べた 秋日和
帰り道 母がコスモス 買ってきた
ギリギリス つかまえ兄に 自まんする
父さんと 一緒に遊ぶ 秋の昼
僕たちと いっしょに帰る 赤トンボ
太陽に いねのほ先が 照らされる
県大会 秋の青空 応援団
天高く ジャンブルジムから 見た夕日

4年 山本 風
4年 安藤 愛菜
4年 松野 創
4年 田中 美杜
4年 山田 陽香
5年 小山 瑳映
5年 竹内 真葉
5年 今西 琳大
5年 服部 翔優
6年 飯尾 奈美

滋賀県長浜市立虎姫学園

こおろぎが ころころころと おとがなる
おいしいな あまいおいしいもの おみそしる
みのむしの からだつるつる しているな
くりひろい かぞくみんなで かずきそう
さつまいも バターをぬって 食べたいな
ヒガンバナ 命がめばえて はえてきた
もみじの葉 歩いていくと ふってくる
緑がね いろんな色に 変わる秋
七五三 初めてメイク ドキドキだ
もみじがり 家族みんなで わらってる
妹と どんぐり使い アクセサリー
どんぐりの 目にうつるのは 青い空

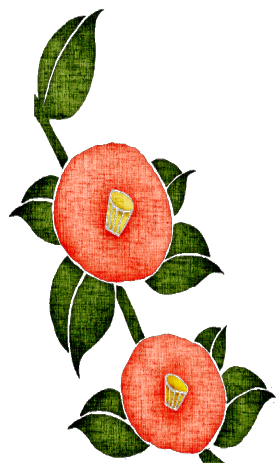
1年 宮川 葵生
1年 秋元 紅彩
2年 平居 志龍
3年 坂口 さとし
3年 村田 龍之助
3年 土田 優芽
4年 音羽 惟沙
4年 北川 莉羽
4年 本庄 玲美
5年 吉田 紗菜
5年 川越 こはる

裏庭で 秋刀魚のにおいたちこめる
コスモスが 風に吹かれて 咲いている

5年 村田 虎乃助
6年 西村 実礼

京都府・京都女子大学附属小学校

しかさんに どんぐりたくさん とどけます	1年	葛山 日向花
霜柱 とんがっている いたそうだ	4年	金谷 織月
ひぐらしが カナカナないて 日がくれる	4年	岩田 由蘭
赤や金 クリームみたい 秋の空	4年	須藤 羽菜
十五夜の 月の里には うさぎたち	4年	野波 桃李
送り盆 天へ帰る ひいばあちゃん	4年	居波 明湊
読書の秋 日本の名作 読んでみる	5年	小川 遥
椿さん 紅色洋服 お似あいね	5年	西脇 小晴
梨かじり あふれる汁も 甘きけり	5年	稲富 咲智
水の上 ハクチョウたちが 雲になる	5年	米津 桃子
仏壇に 黄色や白の 菊の花	5年	山添 陸
波の色 秋に染まりて 海笑う	5年	畑中 凜
こおろぎや オークストラを 聞かせてよ	6年	伊藤 卓海
帰り道 キンモクセイの 香る夜	6年	若山 智香
ダンボール 蜜柑がいっぱい つまってる	6年	田丸 凜
家の庭 一輪咲いた 水仙が	6年	山口 紗恵子
時忘れ 一人ながめる 星月夜	6年	臼木 詩織



素晴らしい作品の数々、感動の俳句をありがとうございました。

二〇二三年一月七日

NPO法人 現代の教育問題研究所

近江の子ども俳句教室実行委員会一同

あとがき

「第3回近江の子ども俳句教室」は、新型コロナウイルス感染流行の状況を考慮して、前回に続き投句による募集の形式で開催いたしました。参加者が集まり対面による体験的な俳句教室とはなりませんでしたが、「春夏の部」「秋冬の部」各部に全国各地から多数の応募があり、厳正な審査により各賞を選出することができました。どの句からも季節の情景をみずみずしい感性で受け止め、ふさわしい言葉を選んで表現しようと工夫している姿が想像できました。

俳句は、日本独自の定型詩で、大人だけでなく子供たちにも愛され、世界各国にも多数の愛好者がいます。

十七音の中に、選んだ言葉の組み合わせを工夫することで印象がいぶん変わって感じられるのも俳句の魅力です。

『おくのほそ道』の句として国語の教科書にも載っている芭蕉の有名句に「五月雨を集めて早し最上川」があります。この句の前に、芭蕉は「五月雨を集めて涼し最上川」と詠んでいます。川風を受けた気持ちが涼しいと素直に表現したのでしょうか。その後、実際に五月雨が激しく流れる最上川を下る体験をした芭蕉は、自分の実体験を表すのにふさわしい言葉として「涼し」から「早し」に変えて表現しました。二つ句を読み比べてみると、「涼し」と「早し」のちいさな違いから、最上川の流れの印象や作者の感じた思いがずいぶん違って感じられるから不思議です。

見たこと感じたことを素直に書き表した句も素敵です。さらに、実際に体験したからこそその思いを言葉に込めた句はまた魅力的に感じられます。十七音のマジックと言ってもいいように思います。

俳句では、一度書いた句を、後に部分的に変えた句として詠み直すということとは、芭蕉だけでなく、現代の俳句の作者の中でもよくあることのようにです。

入賞者の皆さんもきつと、「この言葉がよいかな？ いやこんな言い方の方がぴったりくるぞ」と悩んだりしたのではないでしょうか。クラスや友だちと一緒に取り組んだときには、そんな悩みを出し合って、「ああでもない、こうでもない」「私だったらこう書く」「こつちの言葉の方がぴったりくると思うんだけど」と交流し合うことが、言葉や感性・心を磨く上で大切になるのではないかと思います。

言葉を磨き合い、感性・心を磨き合う子供の育ちを期待しています。最後にになりましたが、「国語力は人間力」との思いで子供たちの言葉の力、人間性の育成を目指しています。本NPO法人の事業の趣旨をご理解いただきご後援賜りました、滋賀県知事様をはじめ多くの皆様に作品集作成にあたって、ご支援ご協力いただきました先生方や関係者の皆様に深く感謝いたしますとともに、今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和四年一月十日

副理事長 森邦博

第3回近江の子ども俳句教室〈投句部門〉

作品集ー春夏の俳句・秋冬の俳句ー

発行：2022年1月21日

編集：好光幹雄

印刷：工房 Kitajima

発行責任者：NPO法人現代の教育問題研究所

NPO法人現代の教育問題研究所

理事長 吉永幸司 Web <http://kokugo-npo.com>

『国語力は人間力』

この理念のもとに基本的な3つの柱で事業及び活動をすすめています。

- ◇ 国語力・心の教育の指導技術向上及び継承を行う活動
- ◇ 国語力・心の教育の実践を広く行う事業
- ◇ 国語力・心の教育の重要性を広く周知する活動

☆さざなみ国語教室 代表 吉永幸司

～国語教育に関わる教師の研究サークル～

Web <http://www.eonet.ne.jp/~sazanamikokugo/>

☆近江の子ども俳句教室 実行委員長 好光幹雄

～子ども俳句の普及と指導者の育成をめざして～

◆コメントを添えた大賞作品は「えふえむ草津 78.5 MH z」の
オンデマンド放送で何時でも、PC・スマホで聞けます！

番組「俳句5・7・G oの時間」2121年10月11月、2022年1月2月放送分。

